



家族のたばこ

(配偶者、子ども、結婚相手のたばこ)

意識調査

結果報告

令和元年 5 月 3 1 日

国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター たばこ政策支援部

家族のたばこ 国民意識アンケート調査結果の概要

平成 31 年 3 月にインターネット・アンケート調査を実施し、2,000 人から回答を得た。結果の概要は次のとおりである。

- **配偶者が「毎日吸っている」「時々吸う日がある」人のうち、たばこを「やめてほしい（禁煙してほしい）」と思っている人は 61%であった。**
- **たばこを吸っている子どもがいる親では、子どものたばこを「やめてほしい（禁煙してほしい）」と思っている割合は 75%だった。**
- **未成年の子どもがいる親では、子どもが 20 歳以上になったときに「絶対、たばこを吸わせたくない」または「できれば、たばこを吸わないで欲しい」と思う回答は 82%に上った。**
- **配偶者がいない人が、結婚する場合の相手について、「絶対、たばこを吸わない人が良い」「できれば、たばこを吸わない人が良い」と思う割合は 70%で、たばこを結婚の条件にする意見が多かった。**

世界では、2017 年の 1 年間に 800 万人以上がたばこによって亡くなっている。うち、120 万人以上は受動喫煙によるものと報告されている（世界保健機関（WHO）推計）。

喫煙および受動喫煙による健康影響についての知識が普及している中で、配偶者や子どものたばこについては、「やめてほしい」と思っている国民が高い割合になっていることが、本調査で判明した。

世界禁煙デー（5 月 31 日）、および禁煙週間（5 月 31 日～6 月 6 日）を機に、家族や友人との間で「受動喫煙のない社会」について議論や検討がなされる際に、また、ご家族の応援と協力のもと禁煙に挑戦される方にとって、本調査結果が参考になれば幸いである。

目次

家族のたばこ 国民意識アンケート調査結果の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
3. 調査結果	5
3.1 配偶者のたばこについて	5
(1) 配偶者の喫煙状況	5
(2) 配偶者のたばこについての認識	5
3.2 子の喫煙について	7
(1) 子どもの喫煙状況について	7
(2) 成人喫煙者の親からみた「子の喫煙」について	7
(3) 未成年の子どもの将来の喫煙について	9
3.3 結婚相手のたばこについて	11
参考資料	15



家族のたばこ 国民意識アンケート調査結果

1. 調査の目的

毎年、5月31日は、世界禁煙デー。

世界禁煙デー（World No Tobacco Day）は、世界保健機関（WHO ; World Health Organization）が制定した禁煙を推進するための記念日である。

たばこによる健康への悪影響は科学的に明白となっている上、受動喫煙の他者危害性やニコチンの依存性を踏まえると、喫煙習慣は個人の嗜好にとどまらない健康問題であり、生活習慣病を予防する上で、たばこ対策は重要な課題になっている。本年の世界禁煙デーに際して世界保健機関が発信した主要メッセージ（Key messages）は、以下の通りである。

① **2017年の1年間に、世界で800万人以上が、たばこが原因で亡くなっている**

- ・ 2010年の750万人から、たばこの犠牲者数が増加している
- ・ 約半数が70歳を迎える前に、早世している（48%、390万人）
- ・ 約700万人は、本人自身の喫煙によるもの

② **2017年の1年間に、およそ120万人が、受動喫煙が原因で亡くなっている**

- ・ 約半数の60万人が女性
- ・ 5%の6万5千人は、15歳未満の子どもたち

このように、たばこによる影響は本人のみならず、配偶者や子どもを含めて家族にも影響を及ぼす課題であることから、世界禁煙デーを前に、家族のたばこについて、国民の意識や認識の把握を目的とした。配偶者、子ども、将来の結婚相手のたばこについて、意識調査を実施した。

2. 調査の概要

実施期間：平成31年3月22日(金)～3月27日(水)

実施方法：インターネット・アンケート調査（株式会社ネオマーケティングへ委託）

財源：厚生労働省、国立がん研究センター委託事業費 たばこ情報収集・分析事業

性別・年齢別の回答者数：

成人 2000名（性別・年代別の回収数は表1のとおり）

うち、喫煙者（毎日吸っている/時々吸う日がある） 1000名

非喫煙者（吸わない） 1000名

表1 回答者の内訳

	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	合計
喫煙男性	109	164	167	146	134	65	785
喫煙女性	36	44	51	42	27	15	215
非喫煙男性	39	82	113	87	112	133	566
非喫煙女性	49	81	76	63	67	98	434
合計	233	371	407	338	340	311	2,000

なお、集計にあたっては、平成29年国民健康・栄養調査、平成29年10月1日の人口推計（総務省統計局）より、性別・年齢別に、喫煙者および非喫煙者の人数を推計し（表2）、回答者の分布の偏りを調整するため、実際の構成比に合わせるための重みづけ（ウェイトバック）を行った（表3）。

表2 平成29年国民健康・栄養調査、平成29年人口推計（総務省統計局）より推計される性別・年代別・喫煙状況別の人口（全国） 単位：千人

	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	合計
喫煙男性	1,710	3,022	3,786	2,633	2,645	1,695	15,491
喫煙女性	384	628	1,149	771	663	428	4,022
非喫煙男性	4,717	4,590	5,775	5,251	6,000	8,769	35,102
非喫煙女性	5,708	6,756	8,189	7,093	8,418	14,340	50,505
合計	12,519	14,996	18,899	15,748	17,726	25,232	105,120

表3 性別・年齢別・喫煙状況の比率に合わせるための調整係数（ウェイトバック係数）

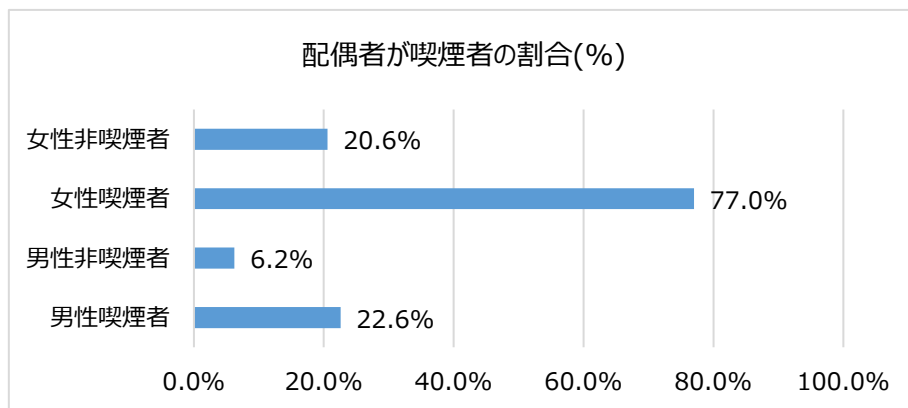
	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
喫煙男性	0.2984	0.3506	0.4313	0.3432	0.3756	0.4962
喫煙女性	0.2028	0.2714	0.4285	0.3491	0.4671	0.5432
非喫煙男性	2.3014	1.0650	0.9723	1.1483	1.0192	1.2544
非喫煙女性	2.2164	1.5870	2.0501	2.1422	2.3905	2.7839

3. 調査結果

3.1 配偶者のたばこについて

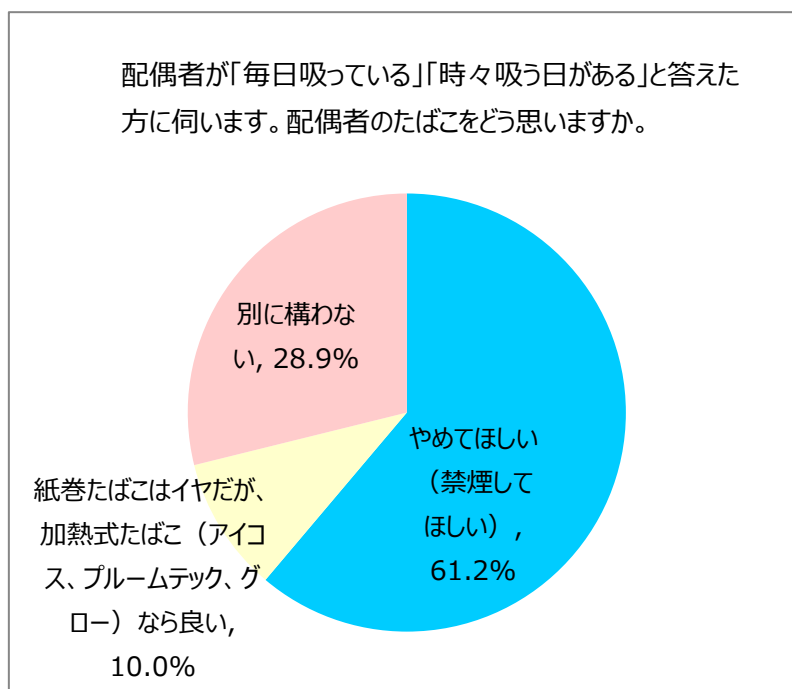
(1) 配偶者の喫煙状況

配偶者が習慣的に喫煙する割合は、女性喫煙者では 77%と高く、男性非喫煙者では 6.2%と低くなっていた。

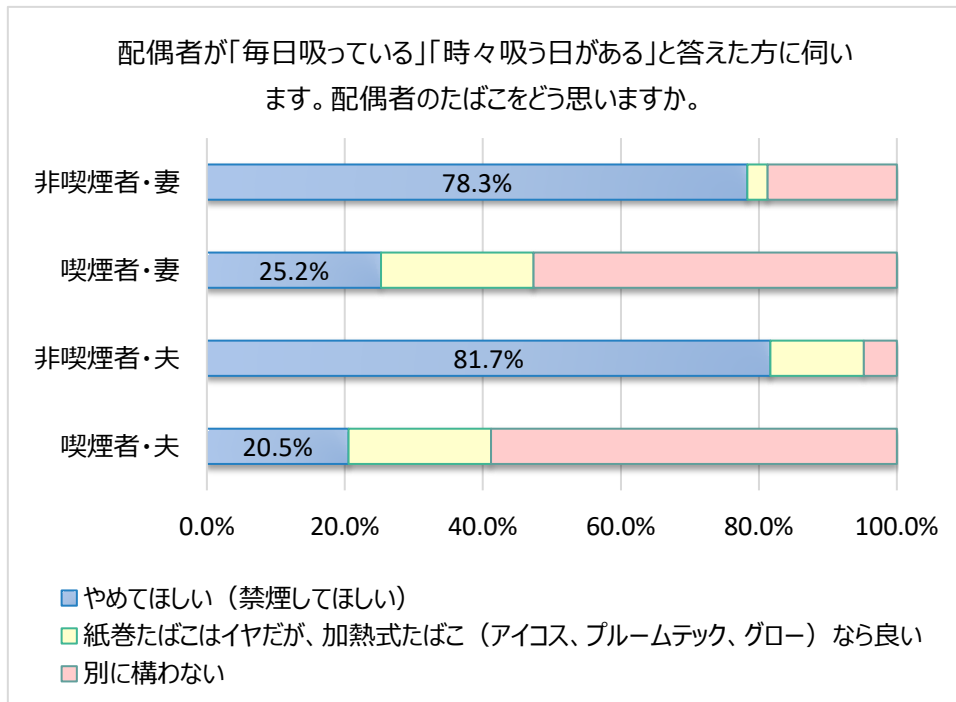


(2) 配偶者のたばこについての認識

配偶者が喫煙する人に対して、配偶者のたばこをどう思うか質問した。



配偶者のたばこを「やめてほしい（禁煙してほしい）」と回答した割合は 61.2%、紙巻たばこはイヤだが加熱式たばこ（アイコス、プルームテック、グロー）なら良いとの回答が 10.0%、別に構わないが 28.9%であった。

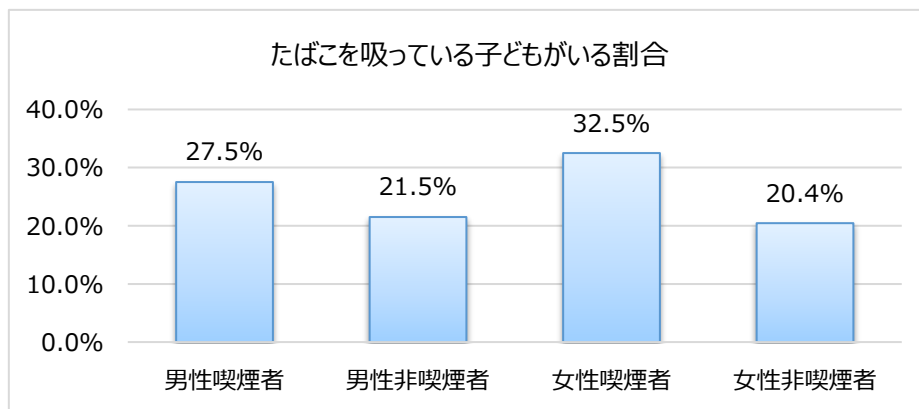


回答者の喫煙状況別に見ると、非喫煙者の夫が妻の喫煙を「やめてほしい」と思う割合は 81.7%、非喫煙者の妻が夫の喫煙を「やめてほしい」と思う割合は 78.3%と高率となっていた。また、本人が喫煙者であるにもかかわらず、配偶者のたばこを「やめてほしい」という回答は、夫で 20.5%、妻で 25.2%と、ある程度の割合となっていた。

3.2 子の喫煙について

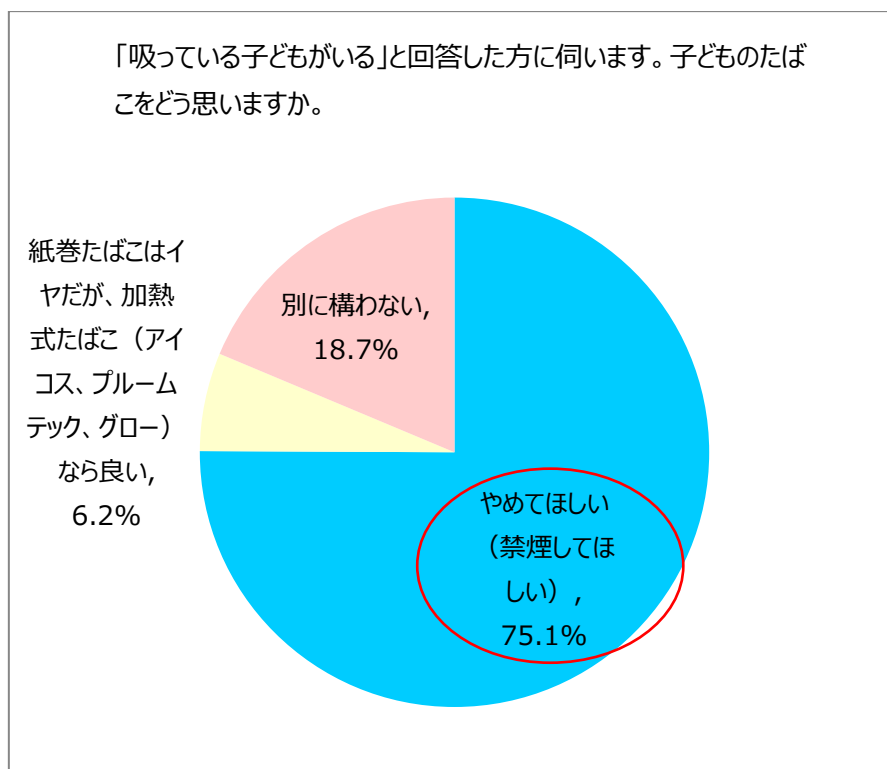
(1) 子どもの喫煙状況について

たばこを吸っている子どもがいる割合は、喫煙者で高く、非喫煙者では低くなっていた。女性喫煙者では、その割合は 32.5%となっていた。

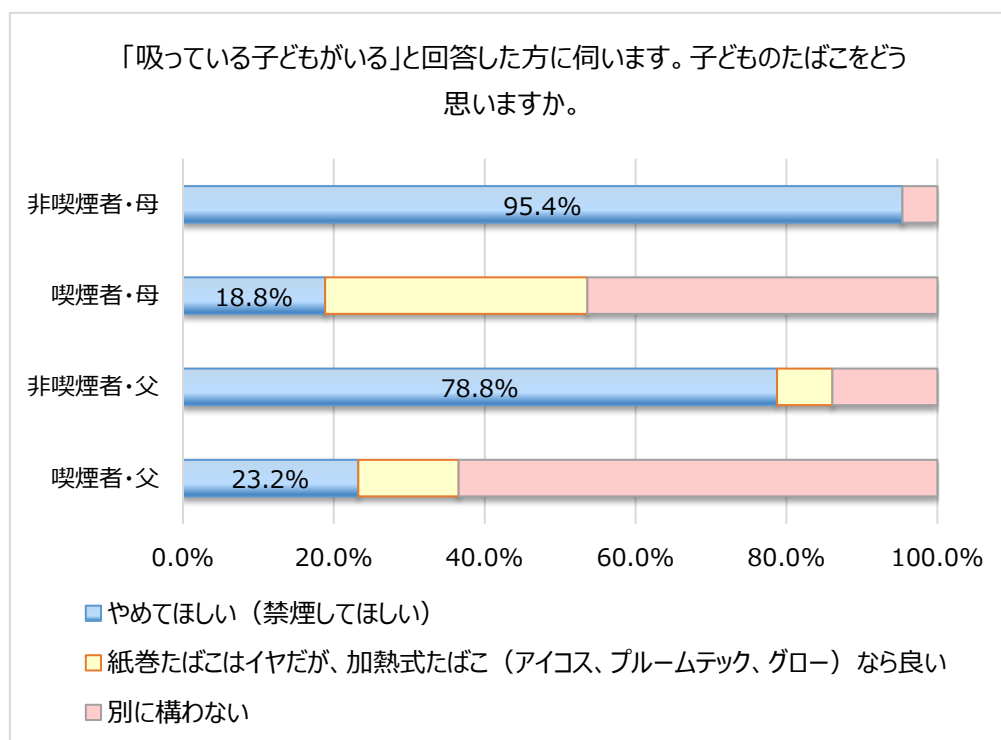


(2) 成人喫煙者の親からみた「子の喫煙」について

20歳以上の子どもがいて、かつたばこを吸っている子どもがいる人に対して、子どものたばこをどう思うか質問した。対象者は、主に50代以上であった。



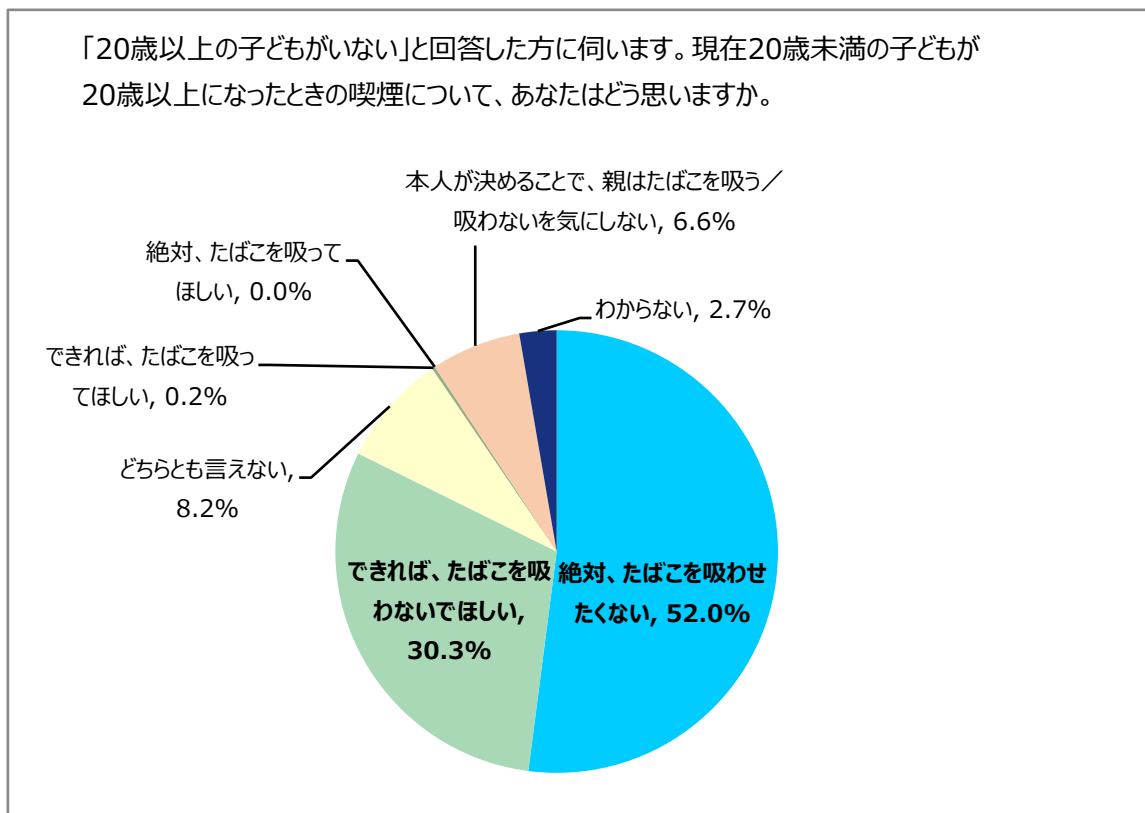
子どものたばこを「やめてほしい（禁煙してほしい）」という回答した割合は 75.1%、紙巻たばこはイヤだが加熱式たばこ（アイコス、プルームテック、グロー）なら良いとの回答が 6.2%、別に構わないが 18.7%であった。



回答者の喫煙状況別に見ると、非喫煙者の父が子どもの喫煙を「やめてほしい」と思う割合は 78.8%、非喫煙者の母が子どもの喫煙を「やめてほしい」と思う割合は 95.4%と高率となっていた。また、親本人が喫煙者であるにもかかわらず、子どものたばこを「やめてほしい」という回答は、父で 23.2%、母で 18.8%と、ある程度の割合となっていた。

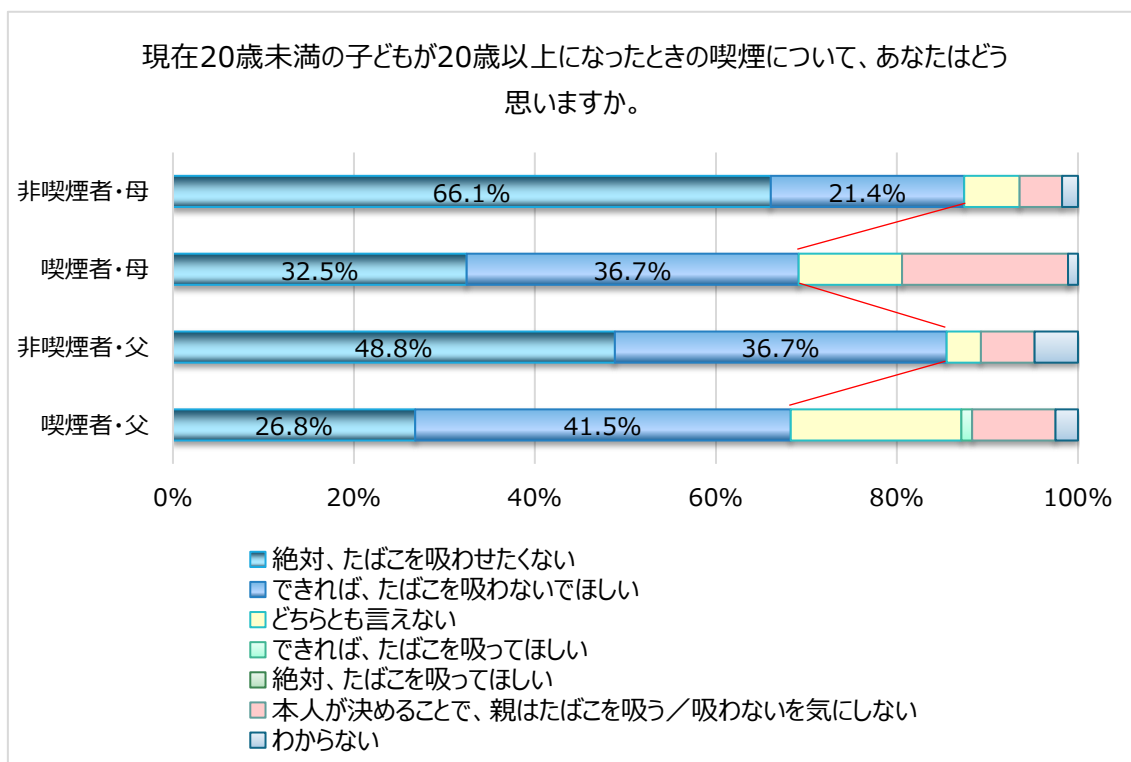
(3) 未成年の子どもの将来の喫煙について

子どもがいて、かつ20歳以上の子どもがいないと回答した人に対して、現在20歳未満の子どもが20歳以上になったときの喫煙について、どう思うか質問した。対象者は、主に30代・40代であった。



子どもが20歳以上になったとき、「絶対、たばこを吸わせたくない」という回答した割合は52.0%、「できれば、たばこを吸わないでほしい」との回答が30.3%となっており、この二つを合わせると82.3%に達していた。

一方で、「できれば、たばこを吸ってほしい」は0.2%、「絶対、たばこを吸ってほしい」は一人も回答がなかった。また、「本人が決めることで、親はたばこを吸う／吸わないを気にしない」が6.6%、「どちらとも言えない」が8.2%、「わからない」が2.7%であった。

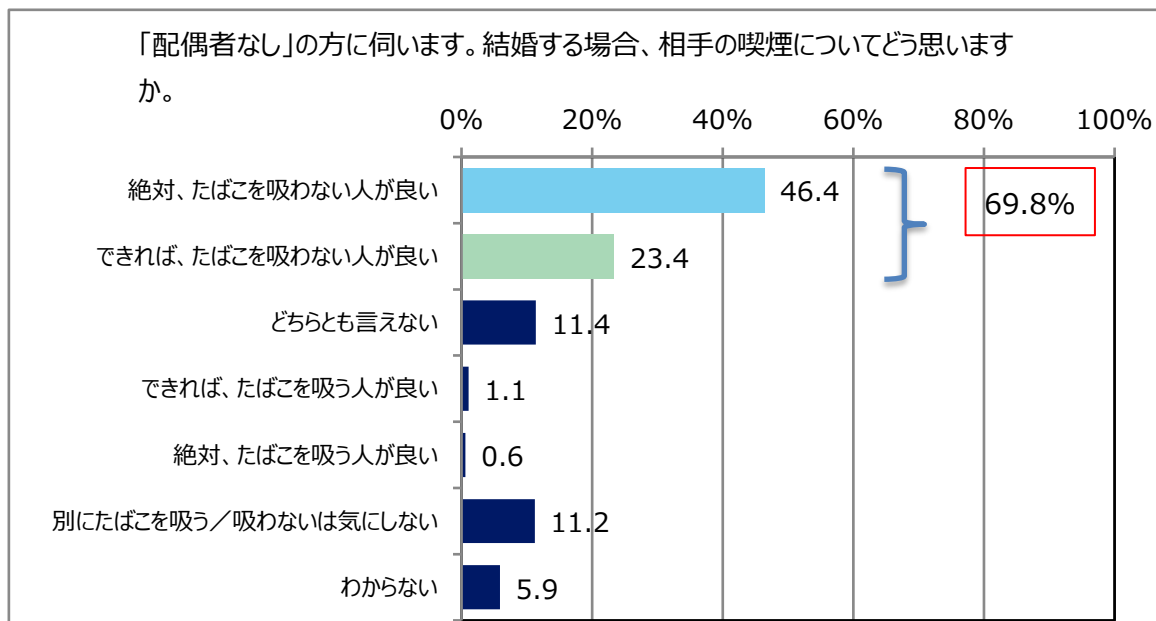


回答者の喫煙状況別に見ると、非喫煙者の父が、子どもが20歳以上になったときの喫煙を「絶対、たばこを吸わせたくない」、「できれば、たばこを吸わないでほしい」と思う割合は85.5%、非喫煙者の母は87.5%と高率となっていた。

また、親本人が喫煙者であるにもかかわらず、子どもが20歳以上になったときの喫煙を「絶対、たばこを吸わせたくない」、「できれば、たばこを吸わないでほしい」という回答は、父で68.3%、母で69.2%となっていた。

3.3 結婚相手のたばこについて

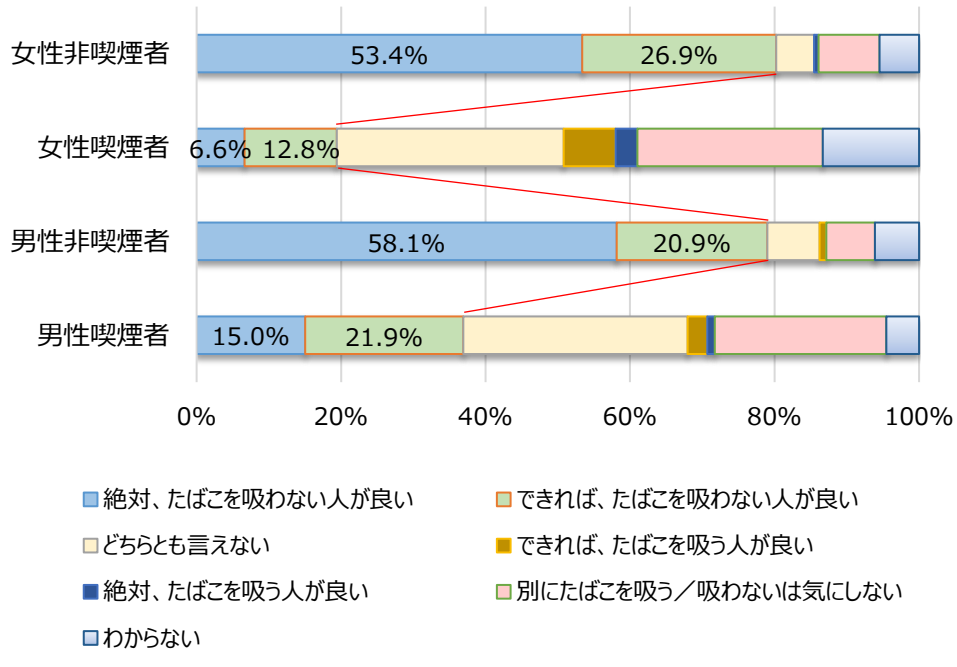
配偶者なしと回答した人を対象に、結婚する場合、相手の喫煙をどう思うか質問した。



結婚する場合、「絶対、たばこを吸わない人が良い」という回答した割合は 46.4%、「できれば、たばこを吸わない人が良い」との回答が 23.4%となっており、この二つを合わせると 69.8%に達していた。

一方で、「絶対、たばこを吸う人が良い」は 0.6%、「できれば、たばこを吸う人が良い」は 1.1%に過ぎなかった。また、「別にたばこを吸う/吸わないを気にしない」が 11.2%、どちらとも言えないが 11.4%、わからないが 5.9%であった。

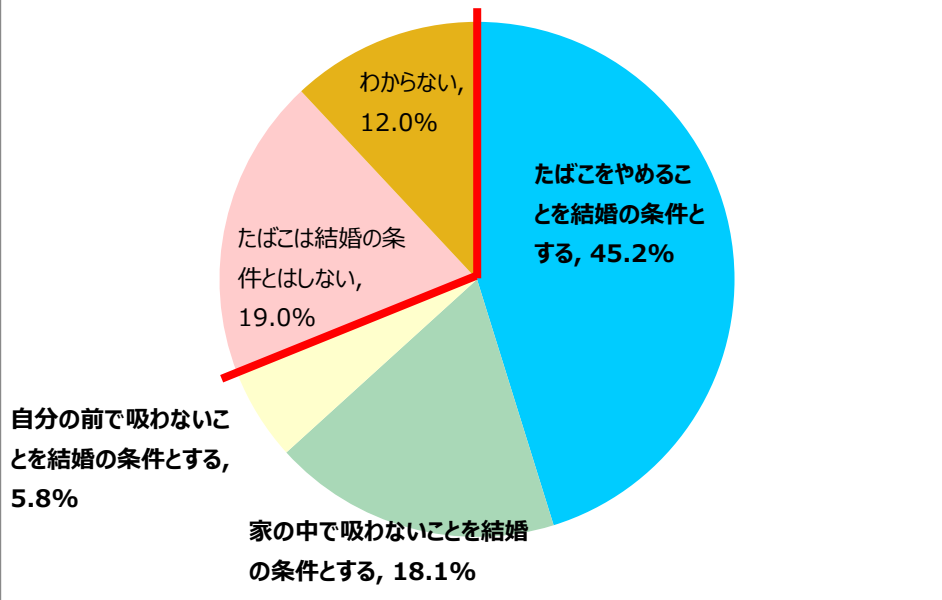
「配偶者なし」の方に伺います。結婚する場合、相手の喫煙について
どう思いますか。



回答者の喫煙状況別に見ると、「絶対、たばこを吸わない人が良い」、「できれば、たばこを吸わない人が良い」という回答は、男性非喫煙者ではそれぞれ、58.1%、20.9%、女性非喫煙者では同じく、53.4%、26.9%となっており、約 8 割がたばこを吸わない人を希望している結果となった。

一方、喫煙者では、男性喫煙者では「絶対、たばこを吸わない人が良い」、「できれば、たばこを吸わない人が良い」という回答がそれぞれ、15.0%、21.9%、女性喫煙者では同じく 6.6%、12.8%であった。

「絶対、たばこを吸わない人が良い」「できれば、たばこを吸わない人が良い」方に伺います。結婚を考えたい相手が喫煙者のとき、あなたはどうしますか。

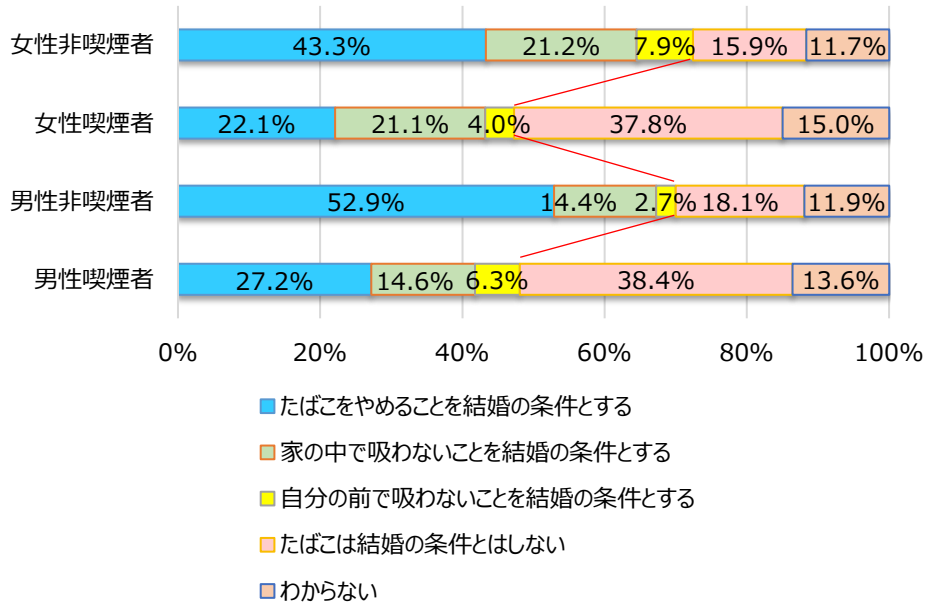


次に、結婚する場合、「絶対、たばこを吸わない人が良い」、または「できれば、たばこを吸わない人が良い」と回答した人を対象に、結婚を考えたい相手が喫煙者のとき、あなたはどうするかを質問した。

「たばこをやめることを結婚の条件とする」という回答が 45.2%、「家の中で吸わないことを結婚の条件とする」が 18.1%、「自分の前で吸わないことを結婚の条件とする」が 5.8%となっており、たばこが何らか結婚の条件とするこれらの合計が 69.1%に達していた。

「たばこは結婚の条件とはしない」が 19.0%、わからないが 12.0%であった。

「絶対、たばこを吸わない人が良い」「できれば、たばこを吸わない人が良い」方に伺います。結婚を考えたい相手が喫煙者のとき、あなたはどのようにしますか。



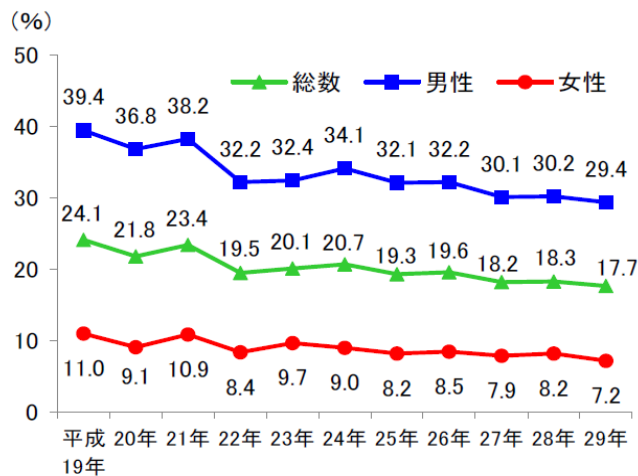
回答者を喫煙状況別に見ると、非喫煙者では、たばこが何らか結婚の条件にする人が男性で70.0%、女性で72.4%となっていた。また、本人が喫煙者であっても、結婚する場合はたばこを吸わない人を希望する人では、男性で48.1%、女性で47.2%が、たばこを何らか結婚の条件とすると考えていた。

参考資料

① 喫煙率：近年下げ止まりの傾向

日本の喫煙率は、平成 29 年の最新データで男性 29.4%、女性 7.2%となっている。全体としては、減少傾向にあるものの、近年下げ止まりの傾向にある。

図 39-1 現在習慣的に喫煙している者の割合の年次推移(20 歳以上)(平成 19~29 年)

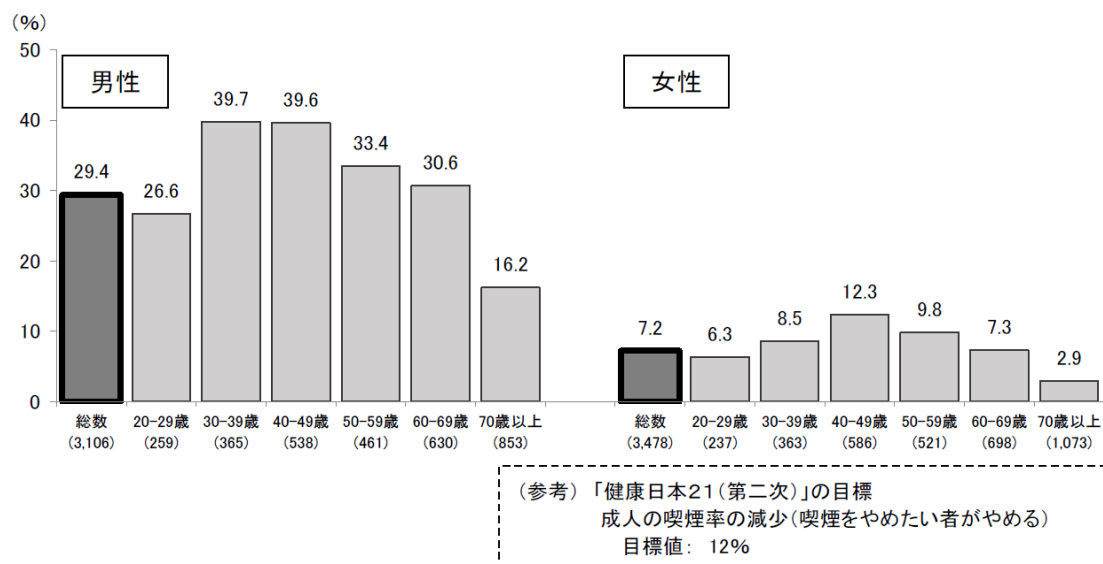


平成 29 年「国民健康栄養調査」結果を抜粋

平成 25 年度（2013 年度）からスタートした第 4 次国民健康づくり運動「健康日本 2 1（第二次）」の喫煙率目標値は、令和 4 年（2022 年）に 12%となっている。現状のトレンドからは、目標値の達成は非常に困難な状況にある。

② 性別・年代別の喫煙率

男性では、30代、40代の喫煙率が他の年代よりも高く、約4割が習慣的に喫煙している。女性では、40代の喫煙率が12.3%と高くなっている。





国立研究開発法人 国立がん研究センター
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
がん対策情報センター たばこ政策支援部
TEL : 03-3542-2511 (代表)
FAX : 03-3547-8098
E-mail : tobacco @ ml.res.ncc.go.jp